ガーナでそろばんプロジェクト 108　号（2023 年 5 月 31 日）

★どの子も主役になれる算数の授業　子どもはそれぞれ得意なものが違う★

１０５号に於いて、指導者として書いてはならない事を書いてしまった事に大いに反省をしなければなりません。自分がほんの少し接した子どもがそろばんや計算ができないと決めつけ、落第があるガーナの教育カリュキュラムの中で“あっ、この子進級できたんだ”と思ってしまったことです。この子は背が高く、いつもニヤニヤしているように思え、私の中では宮沢賢治の『虔十公園林』の主人公の虔十に見えて仕方なく、それは愛嬌もある子なのでほっとくことも出来ず、授業をする度、気にかけていた子なのです。その子は、私が授業で教室に入ると最高の笑顔で出迎えてくれ、そろばんや計算で“僕を指して”とニヤニヤしながら手を挙げるので、今日こそ絶対に出来るという私の思いとは裏腹で前に出て来るものニヤニヤしながら手が止まってしまうのです。そのニヤニヤ、ある時気づきました。これはニヤニヤしているのではなく不安がそんな表情にさせるのでは？そう思うと納得することが多くありました。６年生のそろばんや算数（先月の虫食い算報告）はいつも大概決まった子が写真にアップされます。その事実を避けたくとも、同じ子ばかり写ってしまうのが現実でした。“この子も含めて、算数が苦手な子、そろばんの計算にまだ理解できていない子を主役に出来る授業は無いか？とずっと模索していました。それはチームを作っての授業、そして集団遊びを取り入れた授業にしようと、取り入れたのがこれまでやってきた数カードを使って指定された数を作るものを個人でなくチームでやること、同じく数カードを使って足して十になるペアを作る遊びを取り入れたところ、背の高いあの子も主役になれ、十になるペアを作るのでは、そろばんの授業の時は、手を挙げることなくただ座っているだけの生徒もはしゃいでペアになっていました。驚くことに、この十のペアを作る遊びでは、普段そろばんの時に前に出てくる生徒はペアを作るのが遅かったのです。。私は、どこかでそろばんの計算の理解ができるかできないか？で生徒を見ていましたのかもしれません。あの子は工作が大好きな子。そろばんの授業を楽しみにしている子はぶきっちょさん。子どもにはみんなそれぞれ得意なものがあって、それぞれ違うという事をきちんと理解をしているのに“私が教えているのに、どうして理解出来ないの！”になってしまっていました。反省しなくてはなりません。

報告　TOSHIKO

子どもたちの学びのサポートに心より感謝いたします。

協賛　トモエそろばん様